災害救援出動

災救通信

令和１年
１２月１日
第１９号

発　行

天理教
災害救援
ひのきしん隊
北海道教区隊

逐次発行

今年は日本各地で自然災害が頻発し、６月には山形県沖地震が発生し新潟県村上市や山形県鶴岡市付近では震度６強の地震となった。また、８月には佐賀県、福岡県、長崎県の九州北部で大雨特別警報が発令され各地で浸水被害が起こった。更に９月には台風15号が発生し最大瞬間風速50㍍を超える猛烈な風が千葉市周辺を襲い、風雨被害が関東一円に及び、特に千葉県では送電線が倒れ93万４千戸に及ぶ大停電も起こった。復旧作業は倒木などで難航し、停電は１ヶ月以上に及ぶ地域もあった。更にまた、10月には台風19号が猛威を振るい関東、東北地方の12都県では大雨特別警報が発令され、箱根町では１日の降水量が全国のこれまでの記録を更新する870㍉に達した。こうした想像を絶する雨により各地の河川が氾らんし、町を呑み込むような大変な大水害が起こった。被害は死者98名床上、床下浸水は４万７千戸なった。

こうした全国各地で起きた災害の被災地には各教区の災救隊が出動し、山形県沖地震には新潟教区、８月の九州豪雨には佐賀、福岡、熊本、大分、宮崎、長崎の教区隊が出動した。更に台風15号被害には本部隊をはじめ千葉、東京、埼玉、群馬、栃木、新潟、静岡、長野、福島、山梨、神奈川、茨城教区隊から延べ658名が出動した。しかもこの台風15号救援活動中には、台風19号が発生。またもや関東地方を直撃した。19号の爪痕は広く深く、直ぐさま宮城教区、長野教区が独自に教区内の救援活動にあたった。災救隊本部では早速、被災教区に出向き被害状況の確認をし、近隣教区との応援出動や本部隊派遣等の相談を行った。一方、北海道教区でもこうした甚大な被害を報道で目の当たりにして、少しでも何らかの形で救援活動出来ないものかと発災直後の10月14日から教区長、本部隊、教区隊長、教区書記などと相談を重ね、中田表統領からの出動要請を受けて11月１日、教区災害対策委員会にて出動が決定した。なお、出動は11月３日～７日迄を前半隊として17名が福島教区へ、11月６日～10日迄を後半隊として15名が栃木教区へ出動した。

いわき市小川町にて、瓦礫の除去や汚泥の搬出を行う。

前半隊

11月３日前半隊17名はワゴン車４台、軽トラック、４tダンプ、タイヤショベル各１台を積み込み、苫小牧港19時出航のフェリーに乗船した。翌４日10時に仙台港へ下船し、宿営地である福島県磐城平大教会へと向かった。宿営地に着くと本部合同隊の２次隊が解隊したところで、北海道隊は昼食を摂り、３次隊結隊前の午後、２・５次隊として早速、いわ

宣誓

我々は天理教災害救援ひのきしん隊員であります。一列兄弟の自覚に立ち、真実をもって救援活動にあたります。

き市内の現場へと出動した。現場は磐越東線（ゆうゆうあぶくまライン）にある小川郷駅近くの民家で、直近に夏井川がある。この川が氾濫し多くの土砂と水か一帯を呑み込み、ほとんどの家の１階は水没し30～50㎝の土砂や汚泥を残していった。そうした汚泥をスコップで丁寧に掻き出し、タイヤショベルですくい上げてダンプに積み込み搬出した。また、敷地内では激流で変形したカーポトのやブロック塀の解体作業も同時に行われた。半日の作業ではあったが、非常に濃厚な作業となった。そうした所へ中田善亮表統領、田中勇文災救隊本部長、平澤勇一福島教区長が視察され、隊員等は大きな力をいただいた。

安全に作業を進める。

この夜、宿営地では北海道、青森、福島の教区隊が福島３次隊の結隊式に臨み中田表統領、平澤教区長、地元社協からあいさつを頂いた。

中田善亮表統領から「数ある被災地に遠く北海道、青森から駆けつけて下さり心からお礼申し上げる。この地で、また各現場で作業にあたる縁があり、被災された方との縁があると思う。作業は怪我や事故の無いよう務めることは申すまでもなく、こうした縁を大事に被災された方々の気持ちに寄り添ってひのきしんしていただきたい。」とあいさつがあった。

翌日５日、６日より３次隊としての本格的な作業が始まりいわき市小川地区、平地区で活動を行い、床下からの汚泥除去や高圧洗浄機を用いて根太や壁、土間の洗浄、土砂の搬出などを行った。６日午後の作業を終え、前半隊は仙台港へときびすを返し、北海道へと戻った。また、前後半通しで出動の６名は、次の被災地である栃木県へと向かった。

前半隊の作業報告として、住宅４軒の土砂出し96㌧及び洗浄、解体作業などに加え、２軒の家財道具搬出整理を行った。延べ49名。福島出動全体では536名が活動した。

福島教区隊長・副隊長談

この度の本部隊要請までの思いや実際に指揮を執る難しさなどを尋ねてみた。

生江一行（なまえかずゆき）福島教区隊長談

「出動の決断に至るまで教区内はもとより、大勢の人達の力を得ることが出来るかどうか、また、県内各所で被災している中、１ヵ所に集まる難しさもあり心配も多かったが、本部の協力をいただいて活動拠点を持つことが出来た。本部の親心と勇みをもらって福島隊も成長することが出来たと思う。今後はこの勇み心を元に、救援を待ち続けている方のために、拠点を維持して年内は活動を予定している。」

荒井弘徳福島教区副隊長談

「毎日、被災者とボランティアセンターの間で調整役を行って来た。現場ではニーズが変更され事も多いが、伺うだけで喜ばれる。難しさも多いがこれからも活動を続ける。」と語った。

生江隊長と荒井副隊長。

平澤勇一福島教区長。

出動前の様子、磐城平大教会前。

福島教区長あいさつ

平澤勇一福島教区長、（磐城平大教会長）

「北の大地北海道からいわきの地へ熱い思いでお越しいただき、且つ、被災者の心に真実をもって寄り添いおたすけ活動下さりありがとうございました。東日本大震災後に建てられた「真誠館」を宿舎として活用下されたこと大教会長として大変うれしく思っています。この度は誠にありがとうございました。

後半隊

11月6日後半隊9名はワゴン車2台、で苫小牧港19時出航のフェリーに乗船し、た。翌7日10時仙台港へ着岸した。一時の猶予もなく一路栃木県へと車を走らせた。　同じ頃、前日に栃木へと入った前後半通しの6名は、宿営地である鹿沼市清洲コミュニティセンター体育館にて仮の結隊式を済ませ、同地区口粟野にある米穀店の母屋床下の汚泥除去作業にあたっていた。周辺は思川が合流する所となっていて、周辺住宅は床上浸水の跡が至る所に見受けられた。現場周辺では氾らんによって集まった汚泥が悪臭を放ち、被害の大変さを実感し、被災された方々の辛さを肌で感じることが出来た。また、昼食時には米穀店の奥様が豚汁、漬け物、デザートを提供下さり、感動して、それらを頂戴した。「互いたてあいたすけあい」とはこう言ったことなのだろうかと、改めて素晴らしさを味わった。

根太（ねだ）越しに汚泥を搬出。

昼を過ぎると仙台から一目散に鹿沼まで駆けつけた後半隊の隊員と通しの隊員が米穀店で合流し作業が一気にはかどることとなった。母屋からははがした床板を洗浄する班や、床下の汚泥を一輪車に積み込み搬出したりと活気が溢れた。この午後からの作業は福島同様に、各次の繋ぎとなる栃木3・5次隊活動として務め、この夜に栃木4次隊の結隊式が行われた。4次隊には本部隊をはじめ栃木、京都、愛知、静岡、埼玉、北海道の各教区隊が集結した。

丁寧に土砂を掻き出し洗浄、消毒と心込めて作業にあたる。

8日、9日は口粟野地区に加え、下粕尾地区、また、鹿沼市の市街地黒川流域の睦町でも救援活動が行われた。この地区は近年の異常気象で川が増水氾らんも多いとのことで、住民の方は心を倒されていたが、徹底した土砂の除去作業や清掃作業を見て、感謝の思いをいただいた。

9日正午解隊式を終え、一同は仙台からの夜のフェリーに乗船し、10日苫小牧港に上陸し解散した。

この度の災害は余りにも広範囲で傷口も深いものではあるが、こうした地道な活動を継続し、薄紙をはぐようなことにしかならないが、たすけあいを実践し、様々な方にお喜びいただけたことは非常に重たい価値のあることと確信している。災害の起きないような日々のひのきしんの継続こそ大きな力である。

後半隊の作業報告として災害ゴミ・土砂運搬、家屋洗浄清掃、消毒作業、倒木撤去など4軒。延べ45名。全体として18教区1千360名参加。

土砂を隅々から集め一輪車で搬出する。

洞爺湖町長表敬訪問

11月25日　真屋敏春洞爺湖町長と若木　渉経済部環境課長がおぢばを訪れ、神殿、教祖殿参拝の後、中田善亮表統領へ、これまでの天理教の活動のお礼と有事の際の協力体制を確認しあった。訪問後は天理参考館を見学され、感嘆の思いを述べられた。また、午後からは過去に修学旅行で洞爺湖町を訪れたことのある、天理中学校を訪問し感謝の意を伝えた。更にまた、歴代表統領であった、飯降政彦先生、上田嘉太郎先生とも面会され、再会を喜び合った。

教区からは奥村災救隊隊長、岡崎主事、今井災救隊副隊長、佐藤災救隊副隊長、藤田教区青年会委員長が同伴した。

若木課長と真屋町長。（右）

支部隊長会議

10月25日　おぢばの北海道教区事務所において支部隊長会議が行われた。この春に河原城町にあった事務所から三島町に移転されたこともあり、お披露目と活用、経緯費削減を兼ねての開催となった。

主な議案は、台風19号災害の出動となった場合の調整確認や、各振興局での災害ボランティア連携会議出席確認。

また、立教183年6月26日～27日の白川山林整備ひのきしん当番支部の確認（**渡島・札幌中南・札幌北西・上川・十勝・宗谷**から各1名）

更に、来年度平時訓練として立教183年8月31日～9月2日を予定している。訓練地は北海道教区100回記念祭の準備、整備ひのきしんとして教務支庁で実施する。

主に以上のことが相談され、会議を終えた。

移転した教区事務所２階。２部屋の間のふすまをはずして立派な会議室となりました。